

- 73 . あなたの御手が私を造り、私を形造りました。  
どうか私に、悟りを与えてください。  
私があなたの仰せを学ぶようにしてください。
- 74 . あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。  
私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。
- 75 . 主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。
- 76 . どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。
- 77 . 私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。  
あなたのみおしえが私の喜びだからです。
- 78 . どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。  
彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。  
しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。
- 79 . あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。
- 80 . どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。  
それは、私が恥を見ることのないためです。

## 説教

前の前の「ヘース X 詩篇」で、「地はあなたの恵みに満ちています」(64)と告白した詩人は、続く65-72節の「テース J 詩篇」で、地がどのように「恵みに満ちている」のか、神の「おきて QXO」を明らかにします。神さまは最高に「良い bAj」方で、「良い」ことをなさいますが、あくまで「みことばのとおり」良くなさるため、「良い (bAj) 分別 (~[;j; 判断力) と知識 (t[; D; 洞察・見識)」(66節前半)が無ければ理解できません。そして最高にすばらしい、「良い」神さまの恵みを理解する最高の見識と洞察力は、「苦しみに会う」ことによって養われると詩人は告白します。「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせ (bAj : 良い) でした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(71)詩人はストレートに「神の懲らしめを受けて苦しみに会ったことは、私にとって何より最高にすばらしい良いことであった」と告白します。それによって「あなたのおきてを学」んだからです。こうしてどんなに大きな苦しみに会っても、詩人はそれで失望したり、人生をあきらめたりしないで、むしろ揺るぐことなく神さまに信頼し、苦しみながら「幾千の金銀にまさる (bAj : 良い)」神の「おきて」を一つ一つ学びました(72)。

続く「ヨッド y (アルファベットの Y に相当) 詩篇」では、この主題がさらに展開します。

「あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があなたの仰せを学ぶようにしてください。」(73)詩人が、その見識と洞察を磨かれて神さまの「おきて」を学んでいくのは、「苦しみに会う」ことを通してでした。これは別の言い方をすれば、神さまが詩人を苦しみに会わせ、詩人に一つ一つご自身の「おきて」を学ばせておられることに他なりません。最高にすばらしいお方で、同時に最高にすばらしいことを

なさる神さまが、その神さまのすばらしさを理解する良い見識と洞察力を身につけさせるために、詩人を苦しみに会わせて、詩人を教育し、訓練しておられます。それで詩人は目を高く上げて神さまを仰ぎ、「あなたの御手が私を造り、私を形造りました。」と告白します。そして自分をこの世に造られた神さまが、「私に悟りを与えて」、「私があなたの仰せを学ぶようにしてください」と祈るのです。地上で次々と自分に降りかかる日々の「苦しみ」を通して神の「おきて」を一つ一つ学んでいくといった、言わば地上のチマチマした次元の話から一気に天上の世界に突き抜けて、いっそのこと万物の創造主であられる神さまが、自分を根本から新しく造りかえて「悟りを与え」、「あなたの仰せを学ばせてください」というのです。

ここには、地上の一つ一つの「苦しみ」を味わいながら、それでもなおかつ神さまに信頼しつつ何とか必死に神さまの「おきて」を学んでいきましょうといった消極的な視点は消え去って、そういうもの一切を超越し、いわば暗く重い雨雲を突き抜けた青空の中で、晴れ晴れと神さまを仰ぎ見る詩人の姿があります。神さまを最も親しく直接仰ぎ見る詩人の目に映ったのは、神さまだけではありません。「あなたを恐れる人々」、すなわち詩人と同じく神さまを恐れる人々も見えてきます。「あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。」(74)罪を犯して「苦しみに会い」、それを通して一つ一つ神の「おきて」を学んできた詩人でしたが、万物の創造主が自分を教育訓練するためにそれをしておられることに目が開かれた詩人は、自分の他にも、創造主が「苦しみ」を通して教育訓練しておられる人々がいることに目が開かれます。そして、苦難の中にあっても神のことばを「待ち望んでいる」詩人の姿を「見て」、彼らは励まされ「喜ぶ」のです。

「主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。」(75)詩人は「悩まされ(hn"l)：悩む、打ち碎かれる、謙る、弱る)」ますが、それは神さまの「さばき」によることで、創造主なる神さまが詩人をより「正しく」「真実に(hn"Wma/：堅固な、安定した、揺るがないの意味)」造りかえるためであることを詩人はよく知っておりました。神さまの「さばき」は「正しい」ので、それを受ければ受けるほど、詩人は一層神の「おきて」を学んで堅固に揺るぎなく造りかえられていきます。こうして詩人自身は「へりくだらされ、弱っていく」のですが、しかし同時に、内なる人は「揺るがなく」されていきます。これは「恵み」です。そしてこの「恵み」を知ることは「慰め」となります。

「どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。」(76)最高にすばらしい神さまのなさることは悉く正しく、「さばき」もまた「恵み Ds.x;」です。そして、それを知ることが詩人の「慰め」となるのです。詩人は「あわれみを臨ませ、私を生かしてください」と祈ります(77前半)。「あわ

れみ」と訳される~ymix]r;は、母親が胎の子を憐れむ深い同情心を意味します。神さまは、罪を犯す詩人を日々苦しみに会わせて教育し、訓練して、揺るぎない者としてくださいますが、それは赤の他人を教育訓練するのとは異なり、自分が腹を痛めて産んだ我が子を深くいつくしみ、同情するように、「あわれみ」ます。神さまは「すばらしい」お方で、自分をこの世に造られた「造り主」だと告白した詩人でしたが、ここに至って、いわば父にいます「造り主」なる神さまが、腹を痛めて産んだ我が子を深く憐れむ母の「あわれみ」によって「私を生かしてください」と祈ります。勿論これまでも生かして下さっていますが、これからもそのように生かしてくださいとの祈りです。

「あなたのみおしえが私の喜びだからです。」(77後半)神さまの「教え (hr"At)÷ : 律法)」は「良い」だけでなく詩人にとっての「喜び」と告白します。「高ぶる者ども」は「偽りごとをもって私を曲げ」ますが、そういう中であって詩人は「しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます (X;yf : 沈思黙考する、熟考するの意味)」(78)。そして「高ぶる者どもが、恥を見ますように」と祈るのです。「恥を見る vAB」とは、神の呪いを受けて惨めな状態に陥って、あるいは滅びて、世界中の笑い物になることを意味します。「高ぶる者ども」は、神さまが見えずに勝手に生きるので、その結果、神の呪いを受けて滅びて「恥を見ますように」と詩人は祈ります。これに対し、「あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る ([d;y" : 見出す、悟る、洞察する)者たち」は、続々と詩人の所に集結するよう祈ります(79)。

そして詩人は、最後にこう祈るのです。「どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。」(80)「全きもの~ymiT'」は本来「完全無欠な、傷のない」の意味で、「まっすぐに」「正しく」「潔白で」「真心」「誠実」とも訳されます。詩人は、「苦しみ」を通して自分の肉体と靈魂の中核をなす「心 yBiäli」に「あなたのおきて」が一つ一つ着実に刻まれていき、遂にはそれが「全きもの」となるようにと最後に祈るのです。いわば神の「おきて」が自分の内に受肉して、神の「おきて」を純粹に、まっすぐ、誠実に、心を尽くして行うものとしてくださいと祈るのです。そうして「高ぶる者ども」のように打たれ、滅びて、「恥を見ること」なく、むしろ神の栄光を全世界にあらわすようにと祈ります。

この祈りは私たちの祈りでもあります。私たちは「へりくだる者」です。神さまの前には何も無い、貧しい者です。罪人です。打ち砕かれたへりくだる者です。神さまの正しいさばきによって日に日に打ち砕かれています。でも苦しみながら、日に日に「神のおきて」を学んでいます。詩人は、恵みに満ちたこの地であって「あなたのおきて」を教えてくださいと祈りました。その「おきて」は、「苦しみ」を通して、一つ一つ

私たちの人格の中核に位置する「心」に刻まれて受肉していきます。そして詩人は、それが一つや二つといったケチな受肉の仕方ではなくて、もっともっと大いに刻まれていって、遂には「全きもの」となるようにと願い、祈りました。

私たちもまた詩人が願ったように「全き者」となりたいと願います。そして「高ぶる者」らのように、こはなりたくないという世界の「恥」「笑い物」となるのではなく、むしろ世界の人々がこうなりたいという神の栄光をあらわす者となりたいと願い、祈ります。